

港湾振興便り



2020. 8

第159号

*:

目 次

*:

1 ポートエッセイ — サプライチェーンの未来 —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

2 トピック

●「みなとオアシスるもい」登録！

～かずの子の生産量日本一！かずの子のマチ留萌で食と観光を楽しもう！～

(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)

●新たな観光の拠点として ～「三笠ターミナル」がオープンしました～

(関東地方整備局 東京湾口航路事務所)

●金沢港でライトアップを開始！

(石川県 土木部 港湾課)

●敦賀港フェリー就航50周年を祝う

(敦賀市 産業経済部 商工貿易振興課)

●金城ふ頭の完成自動車輸出向け岸壁、完成への第一歩

(中部地方整備局 名古屋港湾事務所)

●西村捨三翁銅像献花式

(近畿地方整備局 大阪港湾・空港整備事務所)

3 お知らせ

◇イベント名 : 秋田港外港地区北防波堤釣り開放

*:

1 ポートエッセイ ― サプライチェーンの未来 ―

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

*:

はじめに、7月に、九州を中心に発生した集中豪雨により、熊本など広い範囲で甚大な被害が発生し、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧と復興をお祈りしております。

被災地では、いまだ多くの方々が避難所生活を余儀なくされる中、新型コロナウイルスの再拡大に伴う影響による保健師やボランティアの不足により、被災者の健康管理や復旧作業がままならないばかりか、梅雨明け以降の酷暑のなかで、マスクをつけての後片付けなど、制限が多く大変なご苦勞をされておられると存じますが、健康に留意され一日も早い復興が実現しますよう心よりお祈り申し上げます。

さて、世界中で猛威を振るうコロナ禍は、サプライチェーンにも大きな影響を与え、世界的な流通ネットワークを前例のないほどの混乱に陥らせている。今般、ドイツに本社を置くDHLが発表した「Covid-19: The Future of Supply Chain」と題したレポート(※)では、新型コロナの影響をきっかけにして「将来への備えとして生産拠点の変更などの計画変更の必要性が生じた」と回答した企業は80%を超えている。

また、興味深いものとして極東と中国は、将来のサプライチェーン戦略の見直しの対象になるとしており、「極東から減らす」が3割、「中国からの調達を減らす」が1割強と回答しており、生産拠点の特定地域への偏りを解消するため、地元調達を始めとして調達先の多元化に多くの企業取り組み始めている。

我が国においても中国などに偏ったサプライチェーンの強靱化を図るため、特に国民の健康に直結する重要な製品などに関し、国内の生産拠点等の整備について政府が支援を開始している。

新型コロナは多くの業種に影響を及ぼすこととなった。政府の緊急事態宣言発出に伴う外出自粛や営業の時間の短縮要請などの影響を受けた飲食業や観光業、宿泊業をはじめ、製造業など非常に多くの企業がマイナスの影響に苦しんでいる。その影響により日本はもとより世界の主要港湾では、コンテナ取扱量が減少している。

経済界の大多数がマイナスの影響を大きく受けている一方で、外出自粛による「巣ごもり」需要により、スーパーマーケットや食品製造業、ホームセンターなど、ごく一部の業種で売り上げを伸ばすなど、かすかな明るさも見られている。新潟には、地元を拠点として全国展開を行っているホームセンターや、米菓をはじめとする食品製造業が多く立地することから、米菓の原材料や生活用品、園芸品などの輸入が増加することで、コロナ禍においても売り上げを伸ばす企業があり、そのことで新潟港のコンテナ取扱量が堅調に推移している。この例のように、悲観だけではなく、新たな需要を見つけ、業績を伸ばす商機と捉えて事業を進める企業が増えていくことを期待したい。

また、行政側としても、アフターコロナを見据え、それぞれの港の特長について改めて認識を深めるとともに、明らかになったサプライチェーンの課題に対し的確に対応しなければならない。一例として、コンテナターミナルの運営強化のため、ICT技術を活用し、コンテナ荷役の効率化を図るシステムの構築が進むよう、行政も後押しする必要があると感じている。

今回のような危機を次なるステップへ踏み出す好機ととらえ、世界的な疫病や大規模な災害に強い国土の形成につなげていかなければならない。

※「Covid-19: The Future of Supply Chain」DHLが研究機関BCIとともに発表。世界77カ国の19業種353社から回答を得て、影響や今後の取り組みなどをまとめた。

*:

2 トピック

*:

●「みなとオアシスるもい」登録！

～かずの子の生産量日本一！かずの子のマチ留萌で食と観光を楽しもう！～

(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)

令和2年7月26日に「みなとオアシスるもい」(北海道留萌市)が全国で141箇所目の「みなとオアシス」として登録されました。

「みなとオアシスるもい」は、「船場公園(るしんふれ愛パーク)」、「古丹浜ふ頭-10m岸壁」、「南岸壁」、「黄金岬海浜公園」の4施設から構成されています。代表施設である「船場公園(るしんふれ愛パーク)」は、留萌市の玄関口として多数の観光客を受け入れるとともに、令和2年7月11日には道の駅として開業されるなど、地域特産物の販売や飲食店を備える留萌市を代表する情報発信拠点となっています。

また、留萌の文化を象徴するもののひとつに「鯨(ニシン)」があり、江戸末期から明治、大正、昭和と100年以上にわたってニシン漁が人々に与えた恩恵は、暮らし・文化・芸能と建造物から産業にいたるまで色濃く残っています。ニシン漁の終わりを告げたのは昭和30年頃のこと。それまで培われたかずの子の水産加工技術は、かずの子生産量日本一を誇るマチとして現代でも留萌の人々の誇りになっています。

このようなことから留萌市では、平成28年度に「留萌市かずの子条例」を制定し、市内外に「かずの子のマチ留萌」をPRしているほか、5月5日の「かずの子の日」には、代表施設の「船場公園(るしんふれ愛パーク)」において、『かずの子のマチ留萌』フェスタを開催しています。当日はかずの子の特別価格販売などが行われ、地域住民だけでなく観光客にも人気のイベントとなっています。

今後は「みなとオアシスるもい」として生産量日本一の「かずの子」を活用したメニュー開発やグルメイベントなどを開催し、「かずの子のマチ留萌」としてのブランド力強化と更なる観光振興が図られます。これらの活動が地域活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりや交流促進などの地域の魅力向上につながることを期待致します。



(代表施設) るしんふれ愛パーク



(イベント) 『かずの子のマチ留萌』フェス



(構成施設) 古丹浜ふ頭-10m



(構成施設) 黄金岬海浜公園

●新たな観光の拠点として ～「三笠ターミナル」がオープンしました～

(関東地方整備局 東京湾口航路事務所)

7月15日(水)、横須賀市に新たな観光の拠点となる「三笠ターミナル」(神奈川県横須賀市小川町)がオープンしました！

「三笠ターミナル」は、東京湾に浮かぶ唯一の自然島「猿島観光」及び「第二海堡上陸見学ツアー」の拠点として、航路を運航する株式会社トライアングルが整備しました。

1階は、チケットターミナル、待合所となっており、お土産の購入や軽飲食ができる施設も設けられています。また、訪れた方が横須賀の観光・食などを楽しんでもらえるよう観光案内所も設置されました。

2階には、「猿島ビジターセンター」があり、猿島の歴史や貴重な史跡、島での滞在を充実させる楽しみ方などが展示されています。また、「第二海堡上陸見学ツアー」の拠点として、第二海堡に関する展示も行われており、猿島や第二海堡について、より深く理解できる施設となっております。



三笠ターミナル外観



14日に行われた記者会見での記念撮影



第二海堡上陸見学ツアーに関する展示(2階)

●金沢港でライトアップを開始！

(石川県 土木部 港湾課)

7月3日(金)、金沢港クルーズターミナルにおいて谷本正憲石川県知事ほか関係者の参列のもと金沢港ライトアップ点灯式が開催され、同日からライトアップが開始されました。

夜の金沢港は、これまで、保安や荷役作業に必要な照明しかありませんでしたが、クレーンや船舶等の港特有の施設などをライトアップすることで、金沢港に夜の新しい魅力が加わりました。

金沢港のライトアップは、掘込港湾という特徴を活かし、港内を包み込むように石川らしい「加賀五彩(黄土、藍、臙脂、草、古代紫)」で照らし、幻想的な夜間景観を創出し、また、クルーズターミナル前の無量寺ふ頭においては、音楽とともに、「風に揺らめく水面」など、加賀五彩の色ごとに動きのある模様を演出しています。

核となるクルーズターミナルは、建物の特徴である屋根の波の形を強調するほか、ガラス張りの建物を内部から照らすことにより際立たせ、夜のランドマークとなっております。

金沢に訪れた際は、是非、ここでしか堪能することができない美しい夜景を楽しんでいただきたいと思います。



クルーズターミナル前



クルーズターミナルのライトアップ

●敦賀港フェリー就航50周年を祝う

(敦賀市 産業経済部 商工貿易振興課)

7月20日(月)、敦賀港と北海道を結ぶフェリー航路が、今年、就航50周年を迎えることを記念し、新日本海フェリー株式会社へ感謝状を贈呈しました。

贈呈式は、敦賀港に係留中のフェリー「すずらん」船内で行われ、淵上隆信敦賀市長より感謝状盾を入谷泰生社長へ、観光敦賀キャンペーン隊から花束を入谷社長、岡本直哉船長へ贈呈しました。

淵上市長は、「昭和45年8月4日の就航以来、敦賀港の発展に貢献いただいただけでなく、関西中京圏を結ぶ主要航路として経済と暮らしを支えてきたと認識しております。長年利用していただき、心より感謝しております。」と挨拶。

入谷社長からは、「約半世紀にわたり敦賀市をはじめとする各関係者の一方ならぬご支援・ご愛顧を賜りましてありがとうございます。新型コロナウイルスにより厳しい時代ですが、頑張って乗り切っていきたい。本航路は基幹航路であり、北海道と本州との物流・人流の大きな動脈に育っており、今後も皆様のご期待に添えるように頑張っていきたい。」のお言葉をいただきました。

新日本海フェリーは就航50周年を記念して、9月1日から17日までと9月23日から10月31日までの期間、寄港地の市民が半額で乗船できる『就航50周年寄港地市民割引』を実施します。

寄港地(小樽市・勇払郡厚真町・苫小牧市・秋田市・新潟市・敦賀市・舞鶴市)在住の人は、全航路・全客室の旅客運賃、乗用車・二輪自動車運賃が50%OFFとなります。

この機会にいつもあなたの街にとまっている、あの大きなフェリーに乗船してみませんか。



前列左から二人目: 淵上市長、三人目: 入谷社長



就航当時の状況

●金城ふ頭の完成自動車輸出向け岸壁、完成への第一歩

(中部地方整備局 名古屋港湾事務所)

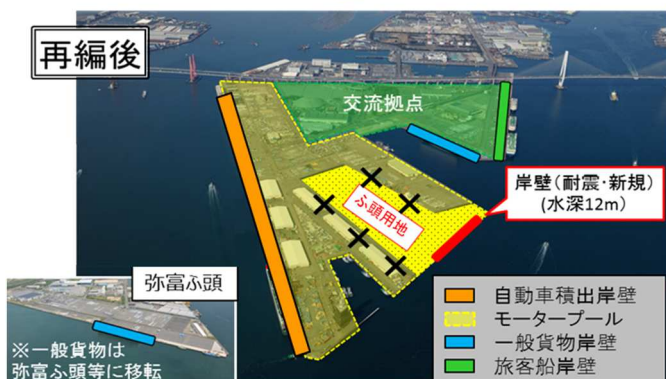
令和2年7月29日(水)、31日(金)に名古屋港金城ふ頭において、耐震強化岸壁(水深12m)のハイブリッドケーソンを国内最大の起重機船「海翔」(4,100t吊)を使用し、据付けました。このケーソンは、長さ35m、幅17.2m、高さ16.2m、重量2,828tと、とても大きなものです。今回、ケーソン全9函のうち初めの2函を据付けました。

名古屋港金城ふ頭では、近年の自動車運搬船の大型化に伴い、岸壁延長や水深の不足などが顕在化しています。また、ふ頭内の用地不足に伴い、完成自動車の仮置きに使用されるモータープール(完成自動車の一時保管用地)が分散・点在し非効率な輸送を余儀なくされている状況です。

中部地方整備局名古屋港湾事務所は、地域基幹産業の国際競争力の維持・強化を図るため、既存ストックを有効活用したふ頭再編により、これらの課題を解決するとともに、震災後にも完成自動車輸送の継続が可能な耐震強化岸壁を整備する名古屋港ふ頭再編整備事業を推進しています。岸壁の整備は令和4年の完了を目標としています。



集約



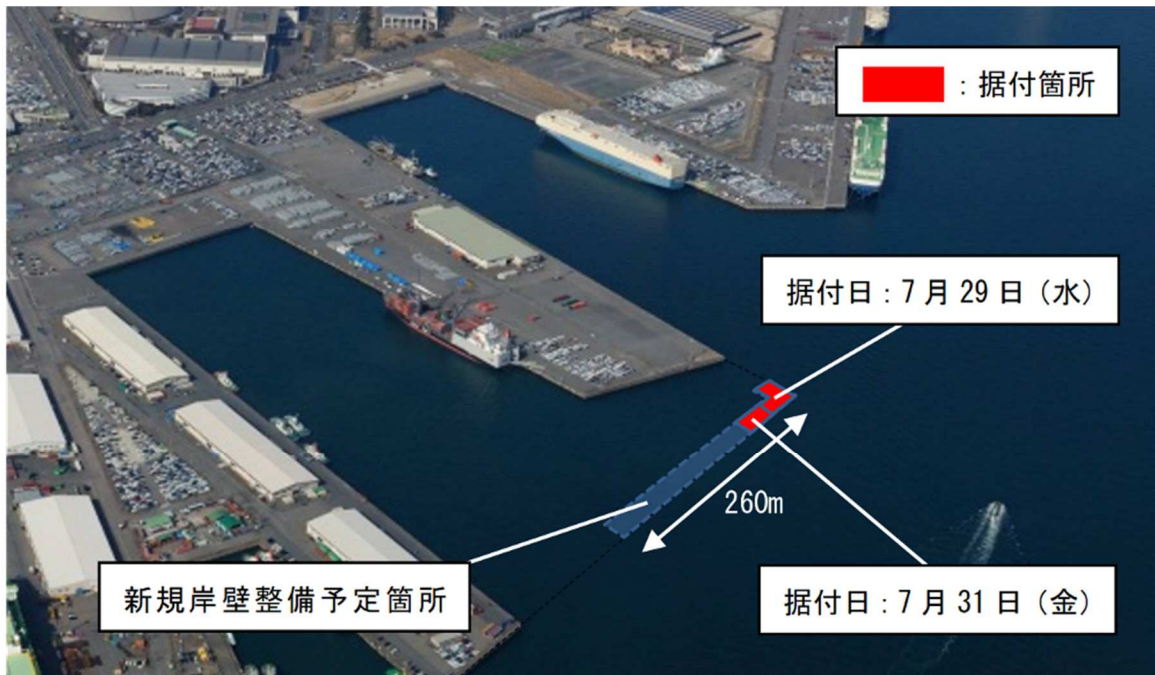
金城ふ頭再編イメージ



起重機船「海翔」による
大型ケーソンの運搬



大型ケーソンの据付状況



大型ケーソンの据付位置図

●西村捨三翁銅像献花式

（近畿地方整備局 大阪港湾・空港整備事務所）

7月15日（水）に大阪港開港記念日を迎えるにあたり、本年も港湾、港運、行政各関係者らが集い、公益社団法人大阪港振興協会主催による西村捨三翁銅像献花式が執り行われました。大阪港は慶応4年（1868年）7月15日に開港しましたが、その開港日を記念して、明治時代に大阪府土木局長、大阪府知事に就任し、初代大阪築港事務所長を務めた西村捨三翁を追慕し、その偉業をたたえ、大阪港の発展を祈念するために、天保山公園内の西村捨三翁銅像前で毎年献花が行われています。

当日は前日まで降り続いた雨も上がり、大変清々しい雰囲気の中献花式が始まり、列席者の手に持った花々が沢山の陽を受け、献花の様子がより一層綺麗に映りました。また、献花式に出席した大阪府出身である当所所長も西村捨三翁に思いを馳せ、大変感慨深い様子で献花を行いました。



＜宮司による清祓い＞



＜関係者らによる献花＞

大阪府土木局長、府知事在職中は、淀川治水対策、大流行したコレラ病の対策、新町の大火の対策と課題が山積みでしたが、行政手腕を発揮し一つ一つ解決に導き府民の信頼に応えました。しかし、大阪築港事務所長時代には「商都大阪の命脈は港にあり」とする市民の強い要望により築港工事に着手しましたが、実施の上では海上埋立に対する大縄権（今日でいう公有水面埋立権）の解決問題、軟弱の海底に対する防波堤築造の困難や築港公債の売行き問題など数々の困難に直面しました。その後、西村捨三翁は病のため明治41年に死去しましたが、第1次大戦後の好景気で築港工事は大きく前進し、外港整備などが実現しました。

3 お知らせ

◇イベント名：秋田港外港地区北防波堤釣り開放
【開催日時】8月8日(土)～11月末 ※土・日・祝祭日のみ

【概要】○開放時間 8～10月→6:00～18:00

○施設利用料金 高校生以上:1000円

中学生:500円

小学生:300円

○最大入場者数 100人

【問合せ先】(一社)秋田港有効利活用協会 018-853-8037(開放日)

事務局長 松渕 080-6036-4352(開放日以外)

【U R L】<https://hinoki-akita.wixsite.com/akita-kitaboha>

::*: 本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先 :*:~::~

日本港湾振興団体連合会事務局

〒105-0002 港区愛宕1-3-4

TEL: 03-5776-0630 FAX: 03-5776-0631

e-mail: bcf06323@nifty.com

[illegible]